

農園通信

2024年4月

新しい学生が訪れ、作付けを畑が待っています。今年はどうな風に手をかけてもらえるのだろうか、今は静まり返って時を刻んでいます。

まもなく140名余の学生が農園に賑やかさとともに訪れ、汗を流します。



イソヒヨドリ。名のとおり日本では磯や港に生息する鳥だそうです。しかし、近年、内陸部でも見られ、都市部や住宅街でもそのきれいな鳴き声を聞くことができるそうです。昨年来、度々、農園でも見かけるようになりました。そして、最近はつがいで畑の周り飛び交い、餌を啄ばみ、電柱や屋根の上でとても響く声で囀っています。

オスはきれいな青色をしているので幸せの青い鳥ともいわれるようです。



こちらはおなじみのヒヨドリ。

ローズマリーの花が開き始めると枝にとまり啄んでいます。啄むのはローズマリーだけでなく、ビオラなどへも盛んにくちばしを伸ばし、花びらを引きちぎっていました。

花や芽生えなどを見つけては、飛んで来て啄みます。

畑を耕起していると飛んで来て虫を食べるハクセキレイやムクドリ、そしてカワラヒワもやって来ては草の種にくちばしを伸ばしています。鳥たちでにぎやかな農園です。



もう一つ、鳥のお話。

今まではなかったのですが、この春、流し台の手洗い用の固形石鹼が持ち去られました。おそらく、カラスの仕業かと。まだ、餌が少なく、固形石鹼は油分を原料に含むため持って行って、食べるようです。ネットに入れておいても持っていくことは承知していたのですが油断していました。

また、畑を耕起していると手を伸ばせば届くような近くまで来ます。目当ては土から出てくる虫。こんな近くで見るとは稀なことです。



大麦が出穂して緑鮮やかです。学生の喉を潤す麦茶になります。